



# 紫匂う西府野

府中市立府中第十中学校

学校だより No.1

平成28年 4月12日

## 平成28年度の始動

校長 竹内 康裕

街路樹の木々の芽に春の躍動感を感じる季節となりました。第十中学校も4月6日(水)に始業式を、4月7日(木)に入学式を行い、第十中学校の平成28年度が始まりました。新入生のみなさん、入学おめでとうございます。2、3年生のみなさん、進級おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級、誠におめでとうございます。本校の教職員一同、心よりお祝い申し上げます。本校全教職員が一致団結して、皆様の期待に添うよう努力するとともに、家庭、地域、学校が連携を密にとり、一人一人の生徒を心豊かな人間に育てていきたいと思っております。

申し遅れましたが、私は4月1日付で本校の校長として着任した竹内 康裕(たけうち やすひろ)と申します。どうぞよろしくお願いたします。

### 平成28年度 入学式 校長式辞より(一部抜粋)

さて、今日から中学校三年間の生活を送っていく上で大切にしたいこととお話します。

第一は、「自分を大切にすること」です。中学校時代は、大人になるための準備をする時期であります。自分自身を大切にすることは、自分自身に厳しくあれということでもあります。誘惑に負けずに勉学に部活動に励み、自分自身を鍛え、立派な大人になるための準備をしっかりとしましょう。

第二に、「友達を大切にすること」です。中学校の三年間は、「生涯の友」を作ることができる時でもあります。友達との関係がうまくいってれば、登校するのは楽しいものです。友達を大切に、有意義な、いじめのない学校生活を送りましょう。

第三に、「時間を大切にすること」です。この三年間をどのように使うかは、皆さん次第です。学校の授業も一時間一時間をどこまで大切にできるか。限られた授業をいかに集中して受けるかが重要です。学校生活の中で、その大半を占めるのは授業です。時間を大切にすることは、一時間一時間の授業を大切にすることになるのです。

最後に、ある彫刻家の話を紹介したいと思います。百二歳の高齢でなくなった北村西望という有名な彫刻家がいきました。北村氏が、長崎の平和記念像を制作していた時のことです。ある晩、像の足元にいたカタツムリが、翌朝見ると、何と九メートルもある像のてっぺんに登っていた。北村氏は、小さな生き物の懸命な姿に感動して、少しずつでも進み続けることはすばらしい、人間もまた同じだと感動して、次のような句を詠みました。「たゆまざる 歩みおそろし カタツムリ」

北村氏は、この句について、次のように言っています。「私はこの言葉が大好きである。いつの間にか百歳になったが、自分の足跡のように思えてならない。百歳と一口で言えば簡単だが、自分の前半生は苦節の幾星霜だった。しかし、今思えば全て懐かしい思い出ばかりである。」と。そして、「私は二人の素晴らしい友人に恵まれた。二人とも彫刻の天才だった。私は二人にかなわなかった。二人の後に付いていくのがやっとであり、いやでも私は勉強せざるを得なかった。」

この話は、努力し続けることがいかに大切かを教えています。いかなる時でも、少しずつでも歩いていけば、目的地に到着できる。当たり前のことだが、止まってしまえば、絶対に前には行けない。動いていけば、少しでも前進できる。いかなる分野であれ、一事に精通し、また、社会の一隅を照らしゆく何らかの貢献を果たす人達は、共通した道を歩んでいるのです。それは、絶えざる精進を忘れない「努力の道」であります。

「たゆむ心無く努力の根を深く張れ」と申し上げたい。「努力」を続けることは、決して楽ではありません。しかし、「努力」した人には、「勝利」が待っている。その意味で「努力」はウソをつかない、正直であるとも言えます。新入生の皆さん、夢の実現のために、努力の道へ、希望の第一歩を踏み出しましょう。

「たゆまざる 歩みおそろし カタツムリ」

今日より明日、明日より明後日と着実に前進し、成長していくことを期待して式辞といたします。